



## 工学分館における勉学の思い出

化学・バイオ系学生支援室

星野 仁



私は工学部・環境科学研究科を停年退職し、現在、上記「支援室」を非常勤で担当しています。工学分館から創立40周年に際し、思い出やエピソードを述べるよう依頼がございました。悩みましたがお引き受けして、工学分館と小生の関わりについて述べたいと考えます。

小生は昔分析化学の研究室（四ッ柳隆夫教授）に勤務し、「学科旧蔵図書 化学」に通い詰めていました。特に利用していた書籍は、

- 1) Handbook of Organic Analytical Reagents, (K. Ueno, et al), 1982, CRC Press.
- 2) Handbook of Triarylmethane and Xanthene Dyes, (O. Valcl, et al), 1985, CRC Press.
- 3) Photometric and Fluorometric Methods of Analysis, Part 1 and 2, (F. D. Snell), 1978, John Wiley & Sons.
- 4) Electronic Absorption Spectra of Radical Ions, (T. Shida, Kyoto Univ.) 1988, Elsevier.

であり、この五冊には小生の研究進展に際し、限りなくお世話になりました。

また、実は北青葉山分館で発見した洋書、

- 5) Water Chemistry, (V. L. Snoeyink and D. Jenkins), 1980, John Wiley & Sons.

に感銘を受け、購入いたしました。が、後日工学分館の「学科旧蔵図書 土木」に本書が存在することを発見し、残念な思いをいたしましたこともあります。

また、分析化学の講義時に学生諸君から「熱力学」の理解を進展させるには？と問われ、次の二書（工学分館二階書架に存在）を紹介しました。すばらしく良い書物です。

- 6) 化学熱力学 一分子の立場からの理解- (G. C. Pimentel, R. D. Spratley, 榊 友彦 訳) 1977 東京化学同人 (ただし、記述単位が kcal/mol で kJ/mol ではありませんでした)
- 7) 入門化学熱力学 (D. H. Everett, 玉虫伶太, 佐藤弦 訳) 1991 東京化学同人

以上のようにずらずらと小生と図書館との関係を勝手に述べてしまいましたが、すべてとても深い関係でした。とにかく工学分館は小生の研究者・教育者としての立場を支えてきたものです。電子ジャーナル化の効果は大、ではありませんが、新着文献を手にとり読んでいた時代を思い起こします。なんだか、とても良き時代でした。

工学部・工学研究科と環境科学研究科在籍の皆さん、図書館を大事にして、勉学の場として多くの時間を過ごす所にしましょう。一階奥の「学科旧蔵図書」へも行ってみては？ 古いけど素晴らしい、内容の高い書籍を発見するかも！

